

2017年1月27日 上毛新聞

甘楽 県地域おこし協力隊交流研修会（県主催）が26日、甘楽町小幡の甘楽ふるさと館を主会場に始まった。県内各地で活動する隊員25

人が1泊2日の日程で、5班に分かれて街歩きや農家との意見交換などフィールドワークを実施。地域での定住に向けて課題を解決する方策を考える。

県地域おこし協力隊研修会 街歩きや農家と意見交換



1人ずつ自己紹介する隊員

同町のNPO法人自然塾寺子屋（矢島亮一理事長）が研修内容を企画した。参加者はまず同館で自己紹介。観光振興コースの4班となる野菜農家、高野一

定住への課題探る

馬さん(34)＝小幡＝を訪ねた。高野さんが「地域とのつながりが重要。家や畑も人の縁で借りられた」と話すと、一様にうなずいた。

同塾と連携して農業研修生を仲間約70人と受け入れる富岡市相野田の白石義行さん(51)の農園では、こんにちはやみそ、まんじゅうの加工室を見学し、話を聞いた。街歩き班と共に酒造会社「聖徳銘醸」を見学。同館に戻り情報を共有した。

交流研修会は、過去の情報交換会で隊員から要望が多かったフィールドワークをしようとして初めて開催した。27日は、各班が2日間の成果を発表する。

1	伊田 中継士	12	18:00	18:55	0:00	0	0:00	0	0:00	0	0:00	0	0:00	0	0
---	--------	----	-------	-------	------	---	------	---	------	---	------	---	------	---	---